

令和6年度 長野県小諸商業高等学校 学校評価 自己評価（最終）

令和7年2月

学 校 教 育 目 標	中 ・ 長 期 的 目 標
<p>教育活動を通して、個人の尊厳と協調の精神を体得させ、民主的な国家社会の形成者たる資質を培うとともに、専門教育により広く国民経済における商業諸活動の担い手としての有為な人材を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身ともに健全で、人間性豊かな生徒を育てる。</li> <li>・学校及び社会生活の規律を重んじる心を育てる。</li> <li>・学習習慣を確立させ、自ら学び自ら考える態度を育てる。</li> <li>・進路目標を明確にさせ、その実現に向けて粘り強く努力する姿勢を育てる。</li> </ul>
今 年 度 の 重 点 目 標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立および、挨拶・身だしなみの徹底を図る。</li> <li>・自ら問いを立て、その解決に向けて主体的・協働的に取り組む力を育成する。</li> <li>・地域社会との連携や協働による活動を通し、探究的な学びを推進する。</li> <li>・学習活動や様々な行事等へのICTの積極的活用、および知見の共有を推進する。</li> <li>・生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめ・体罰等のない、安心安全な学校をつくる。</li> </ul>	

A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

部	担当	今年度の重点目標	具体的な方策	評 価	今後の課題・改善策等
教務部	教務	円滑な学校運営の推進	・長/中期的な見通しを立て、計画や実施方法を具体化し、全職員で共有、各部および部内担当と有機的に連携しながら学校運営を行う。本校の最上位目標(グラジュエーションポリシー)の合意形成から、カリキュラム～アドミッションへと具体化できるよう、全職員で共創する。	B	6月、12月に学び合いWEEKを実施した。授業を見学し合うことで、本校の学習目標や授業のありかたをを考える機会となっている。6月は小諸高校と連携し、授業を見学し合った。お互いの生徒について理解を深めるよい機会となった。新校の学校目標について教員一人ひとりが考えられるよう、来年度もぜひ実施したい。
			・生徒の安全/安心および学びの保障を最上位目標に据えて、社会的変化に応じて、3F (Fast:迅速に、Fair:公平に、Fun:楽しんで)を基本に対応していく。		本年度は、ほぼ計画通りに学習活動が行えた。暑さや感染症対策として、始業式・終業式などオンライン実施とし、臨機応変に対応することができた。
			・2026年度開校小諸新校への統合に向け、内規や学校行事などの精査および具体化を進める。定数減や新校準備に伴う職務負担の増大を職員間でフォローできるよう、寄り添う姿勢や日頃の声かけ、対話の機会を創り出せるよう運営する。		新校の内規作成や行事について協議することができた。職員の学習会も実施し、理解を深めることができた。来年度の決定に向け、さらに各部署と連携し、特定の部署に負担がかからぬよう、コミュニケーションを密にしていきたい。
			・新校開校に関わる校舎改築などの工事が始まるが、学校運営や生徒の学習活動になるべく支障がないよう、事前の周知をしっかりと行うと共に、職員や生徒が行う物品の移動作業等が円滑にかつ安全に進むよう計画をする。		第2体育館や合宿所の除却作業が終了した。昇降口の移動などもあり、生徒には負担をかけたが、担当係のおかげでスムーズに行うことができた。校内内も使用できない場所等が増えている。来年度も、生徒に事故等ないよう、連絡を徹底し、学校生活を安全に送れるよう運営していきたい。
	広報活動の充実と生徒募集対策	・体験入学、授業公開、クラブ体験、入試説明会など、在校生が活躍することで、本校の活きた空気を中学生に感じてもらえるよう、計画/実施/支援する。	B	・体験入学では、生徒が情報処理の講師となり中学生にPC操作等を教えた。また、各分野で活躍している生徒が中学生に話をして、質問に答える「小商生に聴こう」を行った。講師の生徒を増やし、2年生が参加したことで、中学生が高校3年間をイメージしやすかったのではと考える。来年度は1年生の参加も検討したい。生徒会役員も運営に携わり、高校生のようすを間近で感じてもらえる良い機会となっているので、来年度も充実した体験入学となるよう企画したい。	
		・中学校訪問だけでなく、個別出張説明会を広報し、より多く出向くことで、より多くの中学生や保護者が本校に触れる機会を増やし、その中で商業の魅力や価値を発信して「伝わる」「行動させる」ような工夫を講じる。		・クラブ体験参加人数が少なかったため、開催方法や時期を検討していきたい。	
		・新校で2年間過ごす新入生は、新校のスタートを担う中心的学年となってもらいたい。そのため、小諸高校と連携し、新校のイメージやカリキュラム、学校生活等について、具体的にイメージできるような学校パンフレットや案内の作成・配布を行う。		・中学生向け入試説明会は、昨年度より大幅に参加者を増やすことができた。教員向け説明会は、オンラインも併用し開催した。公開授業日には、平日にもかかわらず中学生の来校もあり、本校への関心の高さがうかがえた。	
	PTA同窓会	PTA活動の充実	○厚生委員会 ・「PTA講演会」の企画	B	・PT同窓会講演会は計画通り実施した。参加者が少ないため、来年度については検討中である。。
			○教養・生徒指導委員会 ・「朝の声掛け指導」で生徒とふれあう ・年2回発行「PTA会報」の内容充実 ・「PTA同窓会講演会」の企画		・「朝の声掛け指導」は例年通り実施した。 ・「PTA会報」は予定通り2月末に発行予定である。
		同窓会 学校や生徒のニーズに合った講演会の計画・実施	・PTA講演会・総会・学年学級PTAへの参加呼びかけ ・スマイル小商店街・合唱コンクールへの参加呼びかけ ・PTA同窓会講演会への参加呼びかけ	B	・PTA総会は計画通り実施した。 ・PTA同窓会講演会を企画し実施した。株式会社アビリティトレーニング代表取締役木下 晴弘さんに「君たちに伝えたい幸せの法則」というテーマでご講演いただき、生徒アンケートも好評であった。
・より良い同窓会（PTA共催）講演会を企画する。 ・学校、生徒の要望を正確に捉え、同窓会として応えられることを行っていく。			B	・PTA同窓会講演会は今年度はPTAの担当であったため、運営等の協力を行った。 ・同窓会事務局と協力し、同窓会報の発行など連携して行った。	
ICT	学習活動へのICTの積極的活用の推進	・ネットワーク環境を活かせるよう機器の導入、管理、メンテナンス等を行う。	B	・不足していたドッキングステーションの配備などを行った。 ・セキュリティ研修を行った。 ・引き続き機器の導入やメンテナンスを行い、ICTの活用がすすむ環境を整えたい。	
		・GIGAスクールサポーター、職員による研修会を実施する。			
		・教員、生徒の一人一台端末の運用のサポートを行う。			

生徒指導	登下校中の安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校指導により交通ルールを徹底させる。</li> <li>・自転車通学者に交通安全を定期的に啓発する。</li> <li>・自らの命の大切さと他者への安全配慮を徹底する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校指導で継続しておこなう。</li> <li>・今年度大きな事故が発生してしまった。事故防止の啓発に努める。</li> <li>・各HRや全校集会などで注意喚起をおこなう。</li> </ul>
	身だしなみの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家を出る時から帰宅まで身だしなみを崩さない指導と助言を行う。</li> <li>・オフィシャルウェアとプライベートウェアの違いを理解させる。とくに式典時の身だしなみ指導を徹底する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみについては粘り強い指導の継続と冬季期間の防寒対策の検討が必要。</li> <li>式典行事での身だしなみは成果を日常につなげる指導を継続する。</li> </ul>
生徒指導部	社会的弱者とされる障害を持つ方や高齢者、女性、また同和地区出身者や外国由来の方など様々な立場の人々のおかれた状況や想い、生活課題などを知ることを通して、自立した人間として他者によりよく共生できる感性と態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒対象の人権の講演会（または映画観賞会）を実施する。</li> <li>・他の係と連携をとり、人権意識の向上、道徳教育の推進に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校人権平和学習をおこない、人権意識の啓発を行った。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行などの行事を通じて、被災された方々の労苦に想いを馳せると共に、防災・減災に対して学びを深め、地域社会の担い手としての意識を高める。また授業やその他の行事を通して、戦争の悲惨さを知ると共に平和の大切さを学び、主体的に平和を構築できる意欲と態度を育成する。</li> <li>・生命の大切さや人間としての尊厳を意識させ、あらゆる差別やいじめ、不正を排し、自他を尊重できる実践的な態度を育成する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行の事前学習や各学年行事など学年とも連携して、安心して生活できる環境（防災や平和への意識）のありがたさを認識させる。また授業などで各教科とも連携し、生徒が戦争の悲惨さや平和の大切さを継続して意識できるよう、配慮する。</li> <li>・各係と連携し、命の大切さと差別やいじめなどを許さない意識と態度の育成指導を、適宜適切に行う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセス、「いじめ・悩みに関するアンケート」実施</li> <li>・生徒相談委員会、学年、学級担任、保健室との連携</li> <li>・SC、SSW、巡回支援指導員の活用</li> <li>・教育相談調査票の実施と活用</li> <li>・支援会議の計画・実施</li> <li>・支援に必要な情報提供</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回のいじめ悩みアンケートやアセスを実施したが、実施の仕方や結果の活用できた。</li> <li>・3学年への自殺予防に関しては、スクールカウンセラーの先生に依頼することができた。</li> <li>・支援会議やSC、SSWの活用に関しては適宜行っており、今後も必要に応じて行っていく。</li> </ul>	
生徒相談	いじめ・悩みを抱えた生徒及び特性を持つ生徒の掌握と適切な対応・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒の実態に即した学年ごとの研修の実施</li> <li>・職員への情報提供、情報共有と研修</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の自殺予防に関する研修会はカウンセラーの先生に依頼することにより、専門的に話をいただくことができた。</li> <li>・係が受けてきた研修に関して、短時間ではあるが生徒・職員に伝達することができた。</li> </ul>
保健	健康の保持増進を図り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理できる資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期健康診断や健康相談等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう支援する。</li> <li>・正しい知識を持ち適切な意思決定や行動選択ができる能力を養うため、保健講話等を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断後、受診の必要な生徒へ受診勧告書等で通知を出している。しかし、受診率があまりよくないため12月の三者懇談で再通知を配布した。次年度は個別指導の時間を増やしていきたい。</li> <li>・保健講話として、性被害防止教育、性教育、薬物乱用防止教育を実施した。日頃の健康相談等でも繰り返し大切なことを伝えていきたい。</li> </ul>

進路指導部	進路指導	生徒の進路意識の熟成と自己理解の深化	・日頃より情報収集に努め、様々な経験を通して生徒が自分の生き方を考えられるような進路行事を企画する。	A	「職業」を意識した分野別進路ガイダンスや本校就職支援員による就労講演会の実施、3月にキャリア教育イベント（signposts from Kosyo）の開催など生徒が現実的な視点に立ち、将来を模索する機会となる行事を企画することができた。来年度も引き続き、生徒にとって効果的な進路行事を模索していきたい。
			・上級学校と連携した出前授業や特別講座を積極的に取り入れ、個々の生徒の成長を促す。	B	公務員希望生徒に四年制大学進学者希望生徒に対する特別講座、各学年での進路ガイダンスを開催した。今後も生徒の目的意識が向上し、主体的に学習に取り組めるように、効果的な外部講師による講座を検討していきたい。
			・企業の雇用情勢や業務内容に注目をさせ、仕事への適性について考えさせる。	B	就職支援員による雇用情勢や本人の適性についての面談や面接試験対策が職業意識の向上につながっている。引き続き、支援員と協力しながら適切な指導・助言を行えるよう心がけたい。
			・高大接続改革に向けて情報収集をするだけでなく、共有の場を設け、受験に対する指導体制の構築を図る。	B	大学進学希望者へ適切な情報提供を行うとともに個に応じた指導体制を構築することができた。学年を越えた担任同士による進路指導の情報共有の場を設け、適切な指導ができるようサポートしていきたい。
	スタディサプリの有効活用と基礎学力の定着	・生徒に対しての動機付けおよび意識付け、職員への情報共有を行い、より有効な活用方法を模索する。	C	本年度よりスタディサプリアを導入した。生徒が効果的に学習するための意識付け・動機付けや授業での活用に対して課題があるため、学習指導員と連携をしながらより有効な活用方法について模索していきたい。	
		・基礎学力定着のための学習計画の立案と実施		到達度テストの結果をもとにSHRでの学習を計画したが、定期的な実施に至らなかった。定期的な実施に向けて計画的に進めて行きたい。	
	図書視聴覚	生徒の教養・知識の育成と学習センターとしての役割	・図書館利用の促進を図る	B	・統合に向けて蔵書の分類整理の徹底と館内と書庫の廃棄など環境が整えられた。
			・図書委員の指導		・委員の当番活動の徹底を促す。
			・図書の貸し出し返却の手続き・貸し出し期限の厳守		・図書委員の当番活動を通して手続きが円滑に行われた。督促状により返却を促した。
		必要な情報を収集、選択、活用する能力育成のための情報センターとしての役割	・蔵書の配分比率に即して本を収集する	B	・生徒、職員からの希望に応え、図書館利用が促進された。
・購入希望調査			・近隣の図書館ネットワークを利用し、授業で活用する資料を集めることができた。		
・図書館教諭・司書の研修会参加					
読書を楽しみ、想像力と豊かな心をはぐむ読書センターとしての役割	・広報活動を積極的に行う	B	・図書館便りを定期的に発行し、生徒、職員、保護者に情報を発信した。		
	・他校との交流		・朝読書の事前連絡を徹底し、本の準備を促した。 ・佐久高等学校図書委員会に正副委員長とともに参加し、他校の活動状況を学ぶことができた		
生徒会活動/各種行事等における適切な放送運営	・各種行事においては、生徒が主体的に行動できるよう日頃から機材等の取り扱いを指導する。芸術鑑賞では、生徒が進行できるようサポートする。	B	・日頃の放送や行事における放送も計画通り実施することができた。放送内容も生徒が考え企画できている場面が多少増えた。芸術鑑賞では生徒が司会を行うなど、学びのある行事にできた。小諸市施設の減免額の変更が予定されており、来年度芸術鑑賞の金額設定等の課題が残っている。		
	・生徒会役員および教員と連携がとれるよう、適切な助言を行う。		・次年度も計画的な活動を行うとともに、統合後の芸術鑑賞の在り方を今後、検討していく必要がある。		
	・各種行事ではコロナウイルスの感染や気温などの状況により、急な変更にも柔軟に対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。				

生徒会部	生徒会	主体性、協調性を持たせ、積極的に委員会活動へ参加させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動の意義と各委員会の役割を理解させ、自覚と責任をもって仕事に当たらせる。</li> <li>・受け身ではなく、自ら出来ることを考え、実行していけるような積極性と責任感を持たせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね責任のある立場ということを理解できた。しかしながら、自身の立場を考えられず身だしなみ等の徹底のできない役員もいるため、常日頃から声掛けが必要だと感じる。</li> <li>・考えることだけでなく、自ら考えたことに責任を持ち実行していけるように指導を継続する。</li> </ul>
		各種行事に全力で取り組み、一つ一つの行事が役員だけでなく全校生徒が満足のいくものとなるよう努力する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種行事については、全校生徒が「与えられて」行うのではなく、全校生徒で「作り上げて」いけるようなものとなるよう工夫させる。</li> <li>・行事の企画運営に関し、リハーサルの徹底にこだわり本番さながらの準備ができるよう、適切な助言・指導を行う。</li> <li>・各種行事では急な変更にも対応できるよう、日頃よりICT機材の準備に慣れさせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間の中で計画的に行事運営に臨めるよう取り組んできたが、新校での活動に向けて今まで以上に事前の打ち合わせ等の準備を入念にする必要がある。</li> <li>・様々な場面で活用しているため、ICT機器の取扱については慣れてきている。</li> </ul>
	整美	校舎内外や学校周辺地域の環境美化に取り組む。	清掃用具を整備して各自が清掃活動に参加できるようにする。	B	各清掃担当場所の清掃用具の点検や要望等を聞きながら、不足している用具を整備した。学校周辺の地域の環境美化の取り組みにつき実施できなかった。
		ゴミの分別の徹底を図る。	各クラスやゴミ集積所で、美化委員により呼びかけを繰り返す。	B	ゴミの分別は定着してきているが、さらに分別の意識を高めたい。教材等を印刷した紙についても資源ゴミとして分別を行い減量化を進めていきたい。

学年	今年度の重点目標	具体的な方策	評価	今後の課題・改善策等
一学年	基本的生活習慣の確立をし、高校生としての自覚を持ち行動できるようにする。	・挨拶、身だしなみ、時間を守ること、提出物の期限を守ることなど日々の声掛けを通じて生活習慣の確立をする。自由と放縱の違いを認識させ、自身の行動に責任を持たせる。スマートフォンの扱いなど、高校生として自分の行動に責任を持つことの大切さを教える。職業について知り、これからの進路について考えさせる。	B	スカートを折る、ピアスをつける等の身だしなみの乱れも見られた。今後も粘り強く声をかけていく。スマートフォンでのゲームや動画に依存する生徒が多く、機器やメディアとの付き合い方を考える必要がある。進路オリエンテーションや各種ガイダンスを設定し、生徒が進路について考える機会をつくった。
	学習習慣を身につけ、主体的・協動的に取り組む力を養成する。	・学習環境を整え、日々の授業に集中して取り組めるようにする。学習課題を期限を守って提出できるようにする。グループワーク等を通じ仲間と協働して課題の設定・解決、または納得解の合意形成ができるようにする。	B	各クラスの学習環境の整備を継続して行っている。ビジネス探究プログラムをはじめ、各教科/科目においてもグループワーク等により、学び方も学んだ。クロームブックを学習機器とし、本年度はスタディーサプリも導入して、自ら活用して学ぶ生徒も出てきた。
	人権尊重の姿勢を育む。	・ソーシャルスキルトレーニングなどを実施し、他者との関わり方を学ばせる。いじめ・悩みアンケートや日々の生徒の様子から、問題の早期発見・解決をし、人権侵害は絶対に許さない姿勢で生徒に臨む。	B	ソーシャルスキルトレーニングや性被害防止講演会、小諸市長講演会等を設定し、他者との関りやより高い視座などの気づきを提供した。対人トラブルや問題行動もあったが、その都度、対話により早期に対応するよう努力した。
二学年	基本的生活習慣の確立をし、高校生としての自覚を持ち行動できるようにする。	・挨拶、身だしなみ、時間を守ること、提出物の期限を守ることなど日々の声掛けを通じて生活習慣の確立をする。高校生として自分の行動に責任を持つことの大切さを教える。	B	基本的生活習慣については、ほとんどの生徒がおおむね良好である。一部の生徒に身だしなみの乱れや遅刻等が見られたため、日々の声掛けを大切にしていける必要がある。成人年齢を迎えるにあたり、精神的に自立した行動ができるようこれからも指導していく。
	学習習慣を身につけ、主体的・協動的に取り組む力を養成する。進路意識を高め、自分の将来について考えさせる。	・学習環境を整え、日々の授業に集中して取り組めるようにする。学習課題を期限を守って提出できるようにする。グループワーク等を通じ友人と協力して課題を解決できるようにする。HRや授業、進路ガイダンスを通し卒業後の進路意識を高めていく。検定への積極的な挑戦をすすめていく。	B	各クラスの学習環境の整備を継続して行ってきたが、まだ不十分なところもあるため声掛けや点検を続けていく。小諸探究等の授業を通じ協働して取り組む力をつけた。講演会や学校別ガイダンスを通して進路意識の向上に務めてきた。
	人権尊重の姿勢を育む。平和の大切さを知る。	・ソーシャルスキルトレーニングなどを実施し、他者との関わり方を学ばせる。いじめ・悩みアンケートや日々の生徒の様子から、問題の早期発見・解決をし、人権侵害は絶対に許さない姿勢で生徒に臨む。沖縄への修学旅行を通して、平和の大切さを学習する。	B	修学旅行や学年行事を通して、集団や他者を意識した行動ができるようになった。ただし、中にはコミュニケーションに苦勞する生徒もいたため、個々の状況に応じた指導を工夫していく必要があると考えている。
三学年	基本的生活習慣や、集団の中での行動を通して社会人基礎力を養成する。	・授業や学年集会などを通して、時間厳守、身だしなみについて繰り返し指導する。公私の区別をつけ、自ら学習環境を整美する姿勢を身に付けさせると共に、主体的に学習に取り組む習慣づけを行う。	B	1年次からの学校生活や行事経験により、時間厳守といった基本的事項は身につけられている生徒がほとんどである。日々の清掃活動を中心として、学習環境を自ら整えていくよう指導を重ねた。また、進路決定後に気の緩みが生活態度に表れてしまう生徒もいたため、粘り強い指導を続けた。
	自ら考え、主体的かつ協動的に行動する力を養う。	・授業を通して、目的意識や課題を持ち、主体的に学習に取り組む姿勢や学習習慣の確立をする。また、学校行事や全校での販売実習により他者を尊重して活動する力を身につける。	B	生徒会やクラブ活動及び学校行事において、最高学年として熱心に取り組む生徒が多く見られた。販売実習等の協動的な場面では、コミュニケーションの取り方などで苦勞する生徒に対して、状況に応じた助言等の指導をすることができた。
	各自のライフプランについて考えさせ、進路意識を高め個々の進路実現に向け活動をする。	・進路ガイダンスや講演会等を有効に活用し、生徒がそれぞれの進路を具体化させるとともに、進路実現のための課題を考えさせる。また、積極的かつ主体的に活動できるよう支援をすすめていく。	B	進路ガイダンスや面接講習会を活用しながら、生徒それぞれが自分の進路の実現に向けて取り組むことが出来た。生徒の状況に合わせて丁寧な個別指導を行えたが、生徒の自主性を伸ばすことに関しては工夫が必要であったと考える。